何を信じたらいいの？！
がん情報

こどもに何て
伝えたらいいの？

家族のタバコ、
やめてと言いにくい…

ときどき聞く
ゲノム医療って？？

若いから関係ない、
と思ってた…

治療中こそ、
キレイでいたい！

Green Loupe

グリーンルーペプロジェクト 2019

がん体験者が発信する
「あのとき、知っておきたかったこと」
11月3日（日）10:00 ～ 18:00

SHIBUYA CAST.

スペース（多目的ホール） / ガーデン（屋外広場）

開催報告書

What is グリーンルーペプロジェクト？

ある日突然、がんと言われて、日常が180度変わってしまった…。
世の中には色々な情報が溢れていて、何が正しいのかわからず、途方に暮れてしまった…。
この手強い病の経験者だからこそ、後悔しないように、知っているだけでもおトクな知識を伝えられる、と思います。
知るのはこわい…でも、知らないことは、もっとこわい。知ることは、必ずあなたの力になります！
グリーンルーペは、がん体験者や家族が「がんになる前に知っておきたかった！」を発信するプロジェクト。がんをもう少し近くで見るためのみなさんの”虫めがね”になれたら嬉しいです。ちょっと、のぞいてみてください。

室内セミナールームでの講演・屋外ガーデンでのステージプログラムのほか、
小児がん研究支援のレモネードスタンド、
がんサバイバーの写真展等企画満載！

レモネードスタンド普及協会
LEMONADE STAND PROMOTION ASSOCIATION

ganphoto
ganstory

がん体験者が発信する「あのとき、知っておきたかったこと」

国民ふたりにひとりががんになると言われている今。それでも、避けたいという気持ちがあり、自分事として考えることは、どうしても消極的になってしまうのだと思います。

がんと告知された瞬間、誰もが自分の命に向き合うことになり、多くの方がうろたえ、強い不安を感じてしまう。そんな経験をした私たちが、『あの時に知っておきたかったこと』を発信したい。自らの経験から、今は自分には無関係だと思っている人にこそ届けたい。そんな想いから、日常、多くの人が行き交う場所で発信をしていこうと始めたのが【グリーンルーペプロジェクト】です。

2018年に続き2回目となる今年、会場の確保が大きな壁となりました。相談に行った渋谷区が、私たちの想いを受け止め、会場確保に大きなお力添えをくださったことで、今回のグリーンルーペプロジェクト2019は11月3日（日・祝）に、澁谷キャストにて、実現することができました。

当日は、室内では病気、治療、情報に関しての理解に繋げるセッションを、屋外ではがんへの理解、自分ごととして考えるきっかけになるトークを、との柱で、終日、発信をしていきました。

渋谷でグリーンルペPR動画オンエア！

2019年10月1日～10月31日の1ヶ月間、渋谷スクランブル交差点Q‘EYE ビジョンにて、グリーンルーペの30秒PR動画が、1時間に2回、オンエアされました。
＊後援をいただいた渋谷区の支援と、東急株式会社の協力にて実現いたしました。

渋谷スクランブル交差点 Q‘sEYEで放映中のPR動画

発起人ご紹介

轟 浩美（とどろき ひろみ）
グリーンルーペ発起人代表。
認定NPO法人希望の会理事長。
夫をスキルス胃がんで亡くした遺族。

西口 洋平（にしぐち ようへい）
グリーンルーペ発起人。
一般社団法人キャンサーペアレンツ代表理事。胆管がんステージⅣのサバイバー歴5年目。

長谷川 一男（はせがわ かずお）
グリーンルーペ発起人。
NPO法人肺がん患者の会 ワンステップ理事長。肺がんステージⅣのサバイバー歴10年目。

岸田 徹（きしだ とおる）
グリーンルーペ発起人。
NPO法人がんノート代表。
25歳で胚細胞腫瘍(胎児性がん)を経験。

必見！発起人４人の がんと向き合うストーリー

YouTube に「グリーンルーペチャンネル」を開設し、プロジェクトPR動画、専門医へのインタビュー動画等を発信しています。

SHIBUYA CAST. SPACE

屋外ブース　協賛社展示

- 中外製薬株式会社
  大腸検診モデル・がん啓発資材展示
- MSD株式会社
  オンライン医学事典「MSDマニュアル」
  がん啓発資材展示
- あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
  乳房自己検診モデル、啓発資材展示
  展示協力：プリベントメディカル株式会社
  株式会社ふるサポ
- 株式会社ポーラ
  ハンドトリートメント（無料）施行

参加者の声

＊一般参加者
がんについて知らないことがたくさんありました。がん診療連携拠点病院というものがあることを知りました。自分の住む地域の病院を調べ、なにかあったら相談しようと思いました

＊一般参加者
小児がん支援を呼びかける子どもたちの姿に胸を打たれましたAYA世代という言葉も初めて知りました。応援したいと思い、寄付にも参加しました。

＊参加者　がん患者
イベントの中身が充実していたので、新幹線に乗ってでも行こうと思い、参加しました。充実した内容で、わかりやすいイベントを、いろいろな地域で開催してほしいと思いました。地方にはなかなかありません

＊参加者　がん患者・家族
屋内、屋外とも、充実した内容で、結局、一日参加しました。ゲノム、緩和ケアなど知りたいことが知れ、公開セカンドオピニオンの形式もいいなと思いました

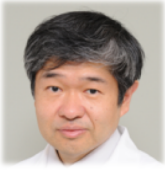
スタッフの声

＊ボランティアスタッフ
道行く人が立ち止まるのを見て、このように、今は無関係と思っている人でも関心がないわけではないことを感じました

＊発起人
屋外セッション、企業ブースを通じて、検診、情報、副作用への発信もできました。生の声を聴くこと、実際に目にすることの力を再確認できました。次に繋がる気づきです

スペース（多目的ホール）プログラム

11:00-11:50　信頼できるがん情報の探しかた【セッション共催：アストラゼネカ株式会社】



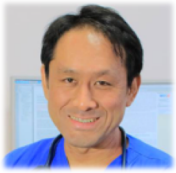
講師：若尾 文彦 国立がん研究センターがん対策情報センター センター長

司会：轟 浩美

がんと向き合うためには、溢れる情報のなかから正しい、適切な情報を選ぶ力が必要です。がんに関する正しい情報はどこにあるのか、また、何が「適切」な情報なのか、ともに考えてみましょう。

オープニングセッションにもかかわらず、席を増設、立ち見も出るほどのご参加をいただきました。世に溢れる情報を、どう見極めたらいいのかという想いが、多くの方の中にあることを感じました。
講師である、国立がん研究センター情報センター長、若尾文彦先生は、事例をあげながら『どういう言葉に人は惹き込まれてしまうのか』『このようなワードが使われていたら要注意』など、明日から力になる具体的な話をしてくださいました。また、全国にあるがん診療連携拠点病院の相談支援室は、誰でも相談が可能であることを紹介し、参加者にリーフレット、携帯できるカードをお渡ししました。

12:00-12:50　公開セカンドオピニオン　【セッション共催：慶應義塾大学病院腫瘍センター】



回答者：浜本 康夫 慶應義塾大学病院腫瘍センター 副センター長
押川 勝太郎 宮崎善仁会病院 腫瘍内科医
中村 将人 相澤病院がん集学治療センター化学療法科 統括医長

YouTube

抗がん剤の専門家である腫瘍内科医3名により、多くの方ががん治療に抱きやすい疑問、不安に答えていきました。がん情報で惑わされてしまうことの多くは、抗がん剤への不安を抱く中、「免疫力をあげる」「天然素材を使用している」などの優し気な言葉に惹かれてしまうことにあります。がんの標準治療は、いくつのも段階で安全性、有効性を確かめて確立されているものであるということと、科学的根拠について、それぞれの専門医から丁寧に解説いただきました。

13:00-13:50　ゲノム医療ってなんだろう？　【セッション共催：中外製薬株式会社】

講師：中川 和彦 近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 教授

司会：長谷川 一男

遺伝子（ゲノム）レベルでがんの特性に応じた治療を行う「個別化医療」「ゲノム医療」をご存知ですか？ゲノム医療の現状やこれからについて、ぜひ知っておいてほしいことをお話します。

がん治療のパラダイムシフトというべきゲノム医療への挑戦。しかし、言葉も中身も理解が難しく、表面的な理解のまま進むと過度な期待や誤解が生じ、ともすると、がんへの偏見すら生んでしまう危険性もあります。
司会の長谷川一男さんを含む6名の患者からの質問に答え、対話する形式を取り、参加者にもゲノムが理解しやすいようなセッション形式を取りました。
参加者には、セッション共催の中外製薬株式会社が制作した、ゲノム医療に関する小冊子をお渡ししました。

レモネードスタンド普及協会
LEMONADE STAND PROMOTION ASSOCIATION

セッションと並行して、小児がん支援につながるレモネードスタンドを開催いたしました。6名のお子さんも参加し、街頭でレモネードスタンドへのお知らせをしてくださって、予定の200杯は完売いたしました。1杯100円のご寄付をとお願いいたしましたが結果、それ以上の71,268円の寄付が集まりました。このご厚意の全額は、一般社団法人レモネードスタンド普及協会を通して、小児がん研究グループJCCGに寄付されます。

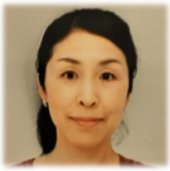
スペース（多目的ホール）プログラム

14:00-14:50　がんになって、子どもを持つこと　【セッション共催：中外製薬株式会社】

＊協力：一般社団法人 AYAがんの医療と支援のあり方研究会（AYA研）

講師：杉本 公平 獨協医科大学埼玉医療センター 教授・リプロダクションセンター センター長
伊藤 由夏 岐阜大学医学部附属病院 周産期・生殖医療センター がん・生殖医療専門心理士

司会：渡邊 知映 上智大学総合人間科学部看護学科 准教授・AYA研理事
天野 慎介 一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事長・AYA研理事



がん治療は治療後の妊娠・出産にどのような影響を与えるのでしょうか。現在、試みられている治療前に卵子や精子を保存する妊孕性温存治療について紹介します。また、がんと共に生きながら親になることとどのように向き合っていけばよいのかについて一緒に考えていきます。

若い人でもがんになる。そのことへの認知も行きわたっていないのが現状です。若くしてがんになったからこそ、人生の大きな節目で悩み、時には諦めたりすることも生じてしまいます。このセッションでは、その中の『子どもをもつ』というテーマを取り上げ、当事者の悩み、社会が支えられることを一緒に考えていきました。サバイバーに向けた養子縁組の取り組みも紹介されました。理解が支える力に繋がることを願い、このセッションから、来年1月放映予定の番組にも繋げていきます。

＊NHK『クローズアップ現代＋』の取材カメラが入りました

15:00-15:50　みんなでがん啓発を考える

司会：西口 洋平

国民ふたりにひとりががんになると言われていても、今は自分には無関係と感じている人も多いと思います。ある日、突然、自分の身に起こった時に、大きなショック、狼狽につながってしまう。そのような経験を持つがん体験者と、今は当事者ではない大学生がともにがん啓発の方法を考え、『がん』に対して抱かれやすいイメージについて、○× 形式のクイズを取り入れ、理解に繋げるセッションを作りました。当日は、がん治療医、大学生、高校生、小学生がクイズに答え、会場の参加者とともに、がんへの理解を深めていきました。

16:00-16:50　いい人生だったと思えるために ～早期から緩和ケアを活用しよう～

講師：大津 秀一 早期緩和ケア大津秀一クリニック 院長

司会：轟 浩美

著書『死ぬときに後悔すること』は25万部のベストセラーである大津秀一先生。「情報氾濫の中で後悔する人を多く見てきたからこそ伝えたい」と悔いのない人生を送るために大切なことをお話します。

早期からの緩和ケアの必要を伝えても、いまだに多くの方に緩和医療は終末期のものであるという根強いイメージがあります。『死』を考えるのではなく、『生きていく』ことへの支援が緩和ケアであるという理解につながるセッションでした。考える基本になるために、実際に旅立つことが目前に迫った人たちは、何を後悔しているのかの事例も含め、いい人生だったと思えるため、知っておいてほしいことを伝えました。。

17:00-17:50　公開セカンドオピニオン　【セッション共催：慶應義塾大学病院腫瘍センター】

回答者：浜本 康夫 慶應義塾大学病院腫瘍センター 副センター長
押川 勝太郎 宮崎善仁会病院 腫瘍内科医
小林 由夏 長岡中央綜合病院 腫瘍内科医
大津 秀一 早期緩和ケア大津秀一クリニック 院長

抗がん剤の専門家である腫瘍内科医3名と緩和ケア医も参加し、多くの方ががん治療に抱きやすい疑問、不安に答えていきました。みんなが抱いている疑問に丁寧に答えていくことを積み重ねた先に、病気、治療への理解、後悔のない選択があるのだと考え、このイベントだけではなく、毎月行っている取り組みです。
このセッションの模様は、同時配信として、YouTube、SNSを通じて会場に来られない方にも視聴していただけるようにしました。

ガーデン（屋外広場）プログラム

11:00-　オープニング！

Oto_Photo Project　がんノート

人がシャッターを押すことで切り取る風景には、その人の想いがこもっています。がん患者、家族、医療者が撮影した写真を紹介している『がんフォト＊がんストーリー』がオリジナルのピアノ曲とコラボして新たなアクションとして取り組む『oto=photo』プロジェクトのライブで
屋外セッションの開幕としました。
『oto=photo』のメンバーは、がん患者、家族としての経験者でもあります。このプロジェクトにこめた想いを、がんノートの岸田徹が引き出していきました。

オープニング前に、会場入口に掲示したターポリンの前で

12:00-　みんなで、ぶっちゃけトーク！

西口洋平

開催地である渋谷の長谷部健区長、伊藤たけし議員、渋谷区観光協会　小池ひろよ事務局長をお迎えし、国立がん研究センター若尾文彦情報センター長を交え、渋谷区としての「がん検診」「喫煙問題」について、文字通り、忌憚のない『ぶっちゃけ』な対話を行いました。
道行く人も多く足をとめ、今後の渋谷の街について考える、まさに『自分事』化するセッションとなりました。
このような、様々な立場の人が、チームとなって考えていくことの有意義さを強く感じることができたセッションでした

13:00-　スペシャルトーク

AYAがんって何？【セッション共催：一般社団法人
AYAがんの医療と支援のあり方研究会（AYA研）】

清水 千佳子 国立国際医療研究センター乳腺腫瘍内科科長/AYA研副理事長

AYA（アヤと読みます）世代とは、Adolescent＆Young Adult（思春期・若年成人）のことをいい、15歳から39歳の患者さんがあてはまります。ライフステージが大きく変化する年代の患者さんに必要なことを考えます。

ゲストAYAがんサバイバー
・金澤 雄太：虫垂がん経験者
・小林 円香：悪性リンパ腫経験者
・鈴木 敬浩：骨肉腫 白血病 舌がん経験者

がんは、どの年代にも起こる病気ですが、若い人には『がんになる』というイメージが持ちにくいところがあります。
このトークセッションでは、AYAがんの治療、支援に取り組む医師と、若いがん患者が、現在の想い、課題を話していきました。
渋谷から原宿に抜ける道沿いにある渋谷キャスト。通りがかりの若い方々が、足を止め、トークに耳を傾けている様子が印象的でした。
このイベントの趣意である『自分ごと化』に繋がることを願っています。

「みんなで、ぶっちゃけトーク」に登壇いただいた渋谷区の長谷部渋谷区長（左）、伊藤区議会議員（中）、観光協会の小池事務局長（右）

メディアの取材を受ける、発起人代表、轟浩美

レモネードスタンドに協力してくれた子ども達が、道ゆく人々に、小児がん研究支援のための寄付を呼びかけてくれました。

ガーデン（屋外広場）プログラム

14:00-　キレイは生きる力になる！

轟 浩美 × 山崎 多賀子 美容ジャーナリスト

自らもがん経験者である美容ジャーナリスト、山崎多賀子さんをお迎えして、がん患者も、そうでない人も、メイクのポイントは同じ、『隠す』のではなく笑顔につながるものなのだという発信をしました。同じ顔のイラストを使用し、メークをすることで印象がどのように変わるかを講義。その後、実際に、現在、がん治療中の方、さらにはがん治療をしている医師の方々にも、実践していきました。特に男性は、アピアランスが仕事に影響すると考えながらも、自分の顔に手を加えることに抵抗を感じてしまう傾向があります。肌にうるおいを与えることだけでも、こんなに印象が違うのだという気付きは、多くの方が共感し、時に自分の顔を鏡で見ながら、熱心に聴いていました。

15:00-　受動喫煙 NO！～結心～

長谷川 一男 & 結心チーム

近くにいる喫煙者の副流煙を吸ってしまうことを『受動喫煙』といいます。がんに罹患した人は、たばこの煙が症状を悪化させるのではないかと強い不安を抱いています。また、がん患者ではなくても、受動喫煙をしたくない人は大勢います。一方、どうしても喫煙をやめられない人もいるのが現実です。両者が対立するのではなく、お互いのことを思い、一緒に考えていく。
それが『結心』プロジェクトです。
このセッションでは、実際に家族間、職場で、どのように取り組んでいるかを、事例をあげて発信していきました。

16:00-　スペシャルトーク

みんなで生きていこう　がんノート

「みんなで生きていこう」をテーマにNPO法人さらプロジェクト(https://sarapore.jp/)　安尾真美さん、認定NPO人 ReBit (https://rebitlgbt.org/)　薬師実芳さんをゲストにインクルージョンについてのトークを行いました。
安尾さんは精神障害者支援NPOで活動され、薬師さんはLGBTのNPOで活動されています。薬師さんはトランスジェンダー、元は女性で今はイケメンです。
障害者、LGBT、働く世代のがん患者は同じような課題を抱えています。連携すること、お互いに理解しあうこと、それを社会に発信していくことの重要性をご紹介しました。

17:00-　フィナーレ！

轟 浩美 × 勝俣 範之 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科教授

抗がん剤専門の腫瘍内科医である、日本医科大学武蔵小杉病院勝俣敬之医師は、世に溢れるがん治療の不確かな情報を心配し、自らの発信に力を入れてきた医師です。
そして、患者家族に向き合う中で、心に寄り添う応援の歌を作ってきたミュージシャンでもあります。
このイベントのフィナーレとして、勝俣医師の歌詞に込めた想いを伺いながら、会場、そして、道行く人も足を止め、みんなで歌い、大盛況の中でフィナーレとすることができました。

Special Thanks

グリーンルーペプロジェクト2019は、想定以上の方にご参加いただき、室内会場では席を増設しても立ち見が出る状況であり、屋外では、道行く人が足を止め聴き入ってくださり、誰もが【知りたい】と思っていることを確認できたイベントとなりました。

昨年の実績をご理解していただき、今年は、さらに多くの企業がイベント開催へのご支援をくださり、がん治療に取り組む医療者のみなさまの参加も増えました。正式な数字ではありまえんが、配布資料の残部から想定し、300～400名の方にご参加いただけたようです。そして、渋谷区区長、議員、観光協会が、がん経験者と「がん検診の普及」「喫煙問題」を、公衆の前で忌憚なく語り合い、今はがんとは無関係の大学生、高校生が、がん啓発を考えるという取り組みは、多くの方ががんをみつめ、理解し、考えることにつながっていく可能性を感じたものです。

がんを取り巻く問題は、治療のみならず社会的、心理的、経済的など、全人的な範囲に及んでいます。国民の理解が深まることは、がんへの偏見、誤解をなくし、誰もが生きやすい社会に繋がっていくものと考えます。

今回のイベントは、行政、企業、医療者、がん経験者、そして、これからがんになるかもしれない人が協力し、みんなの力で実現したものです。大きな挑戦ではありますが、今後も共に考え、よりよい社会に繋がっていくことを願い、継続してまいりたいと思います。

ご支援・ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、引き続き、ご理解、そしてご支援をよろしくお願いいたします。

発起人代表　轟 浩美

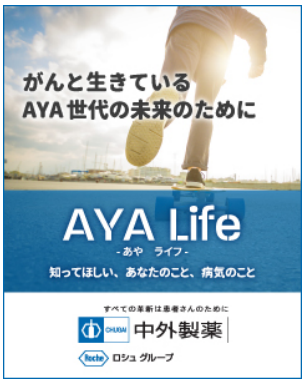
【共催】

認定NPO法人希望の会・ NPO法人肺がん患者の会 ワンステップ

一般社団法人キャンサーペアレンツ・NPO法人がんノート

【セッション共催】

中外製薬株式会社



アストラゼネカ株式会社

慶應義塾大学病院腫瘍センター

慶應義塾大学病院
Keio University Hospital

一般社団法人 AYAがんの医療と支援のあり方研究会（AYA研）

AYA oncology alliance

【協賛】

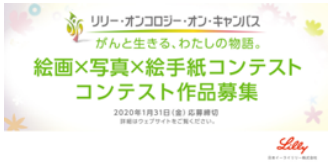
アフラック生命保険株式会社

「生きる」を創る。
Aflac

アッヴィ合同会社

私たちができる全てを、
待っている人のために
abbvie　アッヴィ合同会社

日本イーライリリー株式会社



MSD株式会社

MSD製薬
INVENTING FOR LIFE

武田薬品工業株式会社・がん情報サイト「オンコロ」・株式会社エイチ・アール・エス

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社・株式会社ポーラ・ファイザー株式会社

【物品協賛】大鵬薬品工業株式会社

【後援】　厚生労働省・東京都・渋谷区・渋谷区観光協会

国立がん研究センター・一般社団法人全国がん患者団体連合会

【協力】　東急株式会社・株式会社電通東日本　【応援】　宮下町会・広尾町会